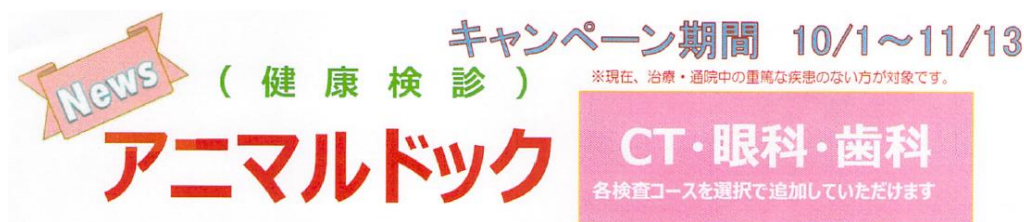


アニマルドックとは

鳥取大学農学部獣医学科 獣医画像診断学教室 教授 今川 智敬



News (健康検診) キャンペーン期間 10/1~11/13
※現在、治療・通院中の重篤な疾患のない方が対象です。
CT・眼科・歯科
各検査コースを選択で追加いただけます

人医療においては、定期的に身体各部位の精密検査を受け、健康状態のチェックや病気の早期発見を目的として、ある年齢以上の人を対象とした「人間ドック」が広く普及しつつあり、受診者数は年間 300 万人を超えています（2013 年、日本人間ドック学会報告）。

人間ドックで見つかりやすい項目として肝機能障害、高コレステロール、肥満、腎・膀胱疾患、高中性脂肪などが挙げられています。また、人の死亡原因は悪性新生物が 1981 年以来第 1 位を占めており、人間ドックによって年間 8256 人に癌が発見されています。

一方、犬や猫の病気をみってみると、犬では内分泌疾患（甲状腺疾患など）、心疾患、腎および肝疾患が多く、猫では腎疾患、内分泌疾患（甲状腺疾患）、糖尿病、肝疾患が多いという報告があります（Veterinary Focus）。特に高齢化に伴って、人と同じような病気の有病率が高くなる傾向にあり、特に、犬の心疾患や腫瘍は 7 歳から急増することが知られています。また犬・猫の死亡原因も人と同様に腫瘍が第一位を占めています（イヌ；54%、ネコ；38%、ペット保険比較サイトより）。

このような背景から、人医療同様、獣医療においても高齢の犬・猫の病気の早期診断・早期治療の重要性が高まってきています。鳥取大学動物医療センターでは、高齢動物の健康維持と病気の早期発見を目的に、アニマルドックのキャンペーンを始めました。今回はこのアニマルドックの概要を説明します。

アニマルドックの検査項目

アニマルドックでは、検査時に明らかな症状の無い、7 歳以上の犬・猫を対象にして、基本検査項目といくつかのオプション検査項目（条件付き）を実施します。

基本検査項目

右図のような鎮静・麻酔の必要のない検査を実施します。以下に各項目の内容を説明します。

アニマルドック基本検査項目	
身体検査	見て、触って全身を詳しく検査します。
血液検査	血液成分を検査し健康状態を推察できます。
X 線検査 (4 枚)	心臓、肺、胸椎の検査。肺炎、消化管異物、膀胱結石などの発見につながります。
心電図	不整脈、心肥大などの発見につながります。
心臓超音波検査	心臓疾患を総合的に検査します。
胸腹部超音波検査	胆嚢や肝臓、お腹の中の臓器を検査します。

身体検査、血液検査、X線検査；

これらの検査は動物病院で一般的に実施されているものですが、アニマルドックでは全体を複数の検査者により検査を実施します。また、その後の検査を実施するうえで欠かせない検査です。犬・猫では内分泌疾患（甲状腺機能低下症、副腎皮質機能亢進症）の発生も多く、そのチェックとして血中ホルモン測定もオプションで選択できます。これらの病気については動物医療センターのホームページの下記のページを参照してください。

副腎皮質機能亢進症；<http://vth-tottori-u.jp/sick/440>

甲状腺機能低下症；<http://vth-tottori-u.jp/sick/439>

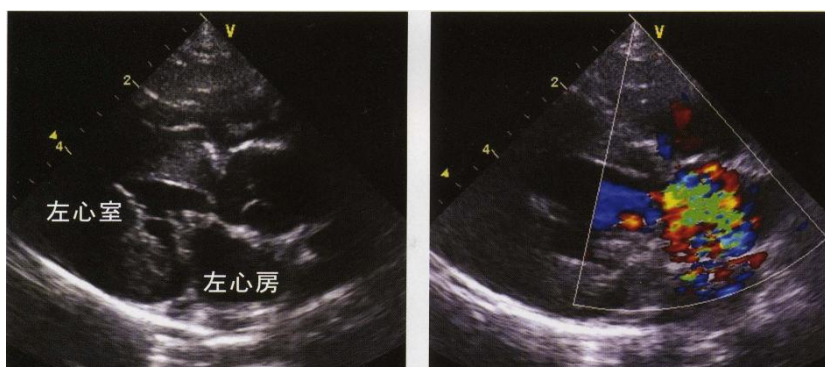
心電図検査；

犬では2番目に多い心疾患をチェックする項目です。身体検査やX線検査で心拍や心臓の大きさを確認した後、心機能を検査するためのものです。不整脈のような普段症状が無い、症状がわかりにくいことが多い病気を検出することができます。

心臓超音波検査；

X線検査、心電図検査の結果を踏まえ、心臓の機能を検査するためのものです。特に高齢の犬に多い心臓弁膜症（小型犬に多い）や心筋症などを検出し、その病気の進行程度を検査します。

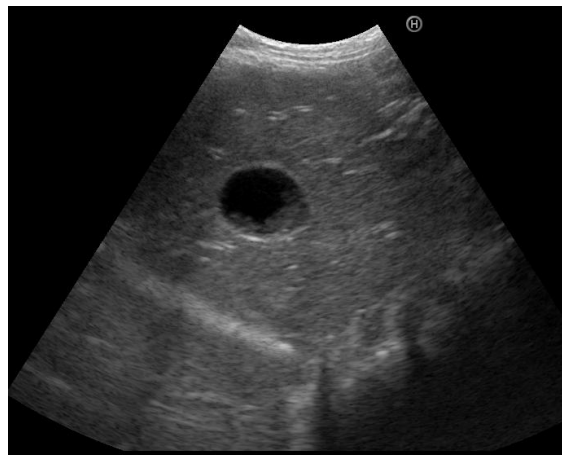
X線では心臓の輪郭、大きさの評価しかできませんが、超音波では心臓の内部構造（図左）および血液の流れ（図右）その速さなど観察できます。



胸腹部超音波検査；

身体検査やX線検査結果を踏まえ、異常がありそうな臓器を中心に検査していきます。X線検査では臓器の大きさや形の異常を検出することができますが、中身の変化についてはあまり情報が得られません。この超音波検査では臓器内の異常（結節、病的組織など）が検出できます。特に腎・肝臓疾患（胆嚢の異常；右図）の検出が可能です。

以上の基本的検査項目に加え、希望される



方（条件付き）は以下のオプション検査・コースを受診することができます。

オプション検査項目

CT 検査、歯科コース（口腔内検査）、眼科コースを選択できますが、CT 検査、歯科コース（口腔内検査）は基本検査において、心機能、呼吸状態、肝機能、腎機能に重篤な異常がない（鎮静を実施できる）と判断される場合に受信することができる検査です。

CT 検査；

鎮静下（複数の鎮静薬によって、麻酔ほど深くはないが、犬・猫がほとんど動かない状態）で全身を断層撮影する検査です。特に X 線検査では複雑でわかりづらい頭部の詳細、や超音波検査ではつかみにくい胸部、腹部全体を観察できるのが特徴です。胸腔や腹腔内、肝臓、脾臓にできた比較的小さな（約 5 mm 以上の）腫瘍・病変などを検出することができます。



胸部の CT 画像
胸腔に結節が
多数みられる。
腫瘍の転移。



腹部の CT 画像
偶発的に発見
された結節状
病変
腹腔内に残存
する精巣の腫
瘍化したもの。

歯科コース；

直接死に至ることはなく、重要な病気とはとらえられない歯周病は、多くの犬・猫（80% 以上）がかかっているといわれています。また人医療では歯周病が心疾患、肝疾患の原因になることが知られており、高齢の犬・猫においても重要な病気の一つです。このコースでは普段観察することができない口腔内を鎮静下で観察するコースです。歯肉炎の程度、歯石の沈着程度、その他の病気（口腔内腫瘍、エプリスなど）の有無をチェックします。口が臭い、硬いものが食べられない場合はチェックしてみてもいいでしょうか。これらの病気については動物医療センターのホームページの下記ページを参照してください。

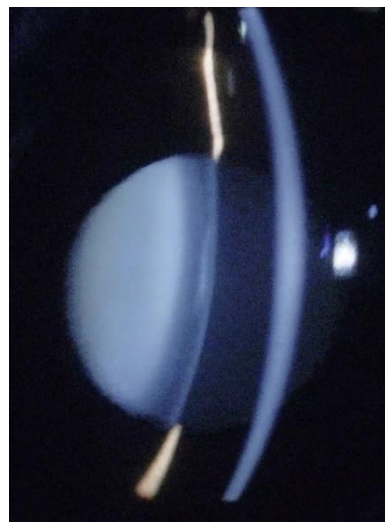
歯周病； <http://vth-tottori-u.jp/sick/541>

口腔内腫瘍； <http://vth-tottori-u.jp/sick/95>

歯石の除去、抜歯などは麻酔を必要としますので、追加治療となります

眼科コース；

眼の病気も犬・猫の高齢化に伴って増えてきています。眼がしょぼしょぼする、目やにが出るなど、眼表層の障害とともに、水晶体が白くなる白内障、眼圧の上昇によっておこる緑内障等眼の奥の病気が進行していることがあります。眼科コースではシルマー試験、眼圧検査、眼底検査、スリットランプ検査（右図）を実施し、眼の病気の有無、その程度をチェックしていきます。これらの検査は基本的には無鎮静で実施可能ですが、犬・猫の性格によっては鎮静が必要になることがあります。眼の病気については動物医療センターのホームページの下記のページを参照してください。



http://vth-tottori-u.jp/wp-content/uploads/2014/04/topics.vol_.22.pdf

アニマルドックの条件

検査時に明らかな症状の無い**7歳以上のシニア犬・猫**が対象です。

獣医学教育の一環として実施するサービスです。獣医学教育（ポリクリ実習）を理解していただける飼い主様に限定します。

（検査は必ず獣医師あるいは、簡単な処置は獣医師立会いの下に実施されます。診断はその分野の専門の獣医師が行います。）

アニマルドックの実施時期は現行では6月～7月、10月～11月に限らせていただきます。経費は各検査項目の総額よりかなり割安になります。

アニマルドックにかかる経費及び検査の詳細については下記に直接お問い合わせください。

鳥取大学動物医療センター予約受付

TEL 085731-5441